



Michigan Newsletter

May 2026

No.19
ミシガン州経済交流駐在員
中嶋 景子

経済交流

1. 近江の茶はいかが？雪舞う中の花見イベント

ページ 1～2

教育交流

1. 守山市中学生との再会が待ちきれない！レナウイ郡中学生の派遣前ミーティング
2. 学生にとって滋賀県に留学する魅力とは？

ページ 2～4

文化交流

1. ミシガンにもうすぐ春が来る — 長い冬の終わりと花開く季節

ページ 4

経済交流

1. 近江の茶はいかが？雪舞う中の花見イベント



4月19日、ノバイ市のミシガン州立大学の所有する教育研修農場にて、日本文化を発信する花見イベントが開催されました。風も強く、時折雪もちらつく寒い日でしたが、家族連れなど約480人が詰めかけました。

この農場は、日系企業等の寄付により、桜庭園が整備されていることでも知られており、庭園内の東屋では三味線の演奏、少し離れたメイン会場では太鼓や笛のパフォーマンスが行われました。

折り紙などのアクティビティや生け花の展示など、日本文化を体験できるブースが並ぶ中、滋賀県PRブースでは、煎茶の水出し茶の試飲提供(約100名分)と観光パンフレットの配布を行いました。これからは、ちょうど一番茶収穫の季節。以前からよく提供しているかぶせ茶と比べると渋めですが、すっきりして美味しいと、日米双方の方に人気でした。

来場者は家族連れや日本に行ってみいたいという方も多く、スポーツ課より提供いただいた、ワールドマスターズゲームズ2027関西大会のPRも行い、30歳以上のスポーツ愛好家であれば誰でも参加できる国際総合競技大会が2027年に関西一円で開催されるため、ぜひ日本へ、関西へ来るきっかけにしてほしいと伝えました。チラシを見て、魅力的な都市や観光地が集まっていることにも驚かれています。



ました。公共交通機関も充実し、都市間の移動もしやすいため、滋賀にも足を運んでほしいと伝えました。

ちなみに、州都ランシング市から、デトロイト市までの間にあるこのノバイ市までで片道 100 キロ。ミシガン州では他地域の大きな町が片道 100 キロ以上離れていることは普通で、移動中は牧歌的な風景が続きます。関西の場合、半径 100 キロの中に大阪、京都、滋賀、奈良など多くの都道府県がすっぽりと収まり、100 キロ走れば 100 万人を超える規模の市を複数通り過ぎる感覚は、ミシガンの方にとって驚きだと思います。



ワールドマスターズゲームズ 2027 関西大会の PR

日本で学ぶ機会に興味を持っている方も多く、彦根のミシガン州立大学連合日本センターを知っていただく良い機会となりました。今から大学に入り直してでも彦根で留学生生活を体験してみたいという社会人、大学に行くまで大事にチラシを保管しておきますと言ってくれた中学生、将来子供が大きくなったらぜひ参加させたいと言ってくれた家族もいました。

参加者は日本文化への興味がある方ばかりにもかかわらず、ミシガンと滋賀の姉妹県州関係を初めて聞いたと言う方も多く、話が弾み、とてもうれしい一日でした。

教育交流

1 守山市中学生との再会が待ちきれない！レナウイ郡中学生の派遣前ミーティング

4 月 12 日、守山市の姉妹都市、レナウイ郡エイドリアン市にて 6 月に守山市に派遣予定のレナウイ郡中学生 8 名と引率者を対象にした事前ミーティングに参加し、滋賀県の紹介をする機会を頂きました。

守山市とレナウイ郡は 1993 年より中学生の相互派遣を行っており、昨年 10 月には守山市から中学生がレナウイ郡を訪れホームステイしました。今回、レナウイ郡の中学生は、昨年受け入れた守山市の中学生宅でホームステイする予定で、同市内での学校訪問やフィールドトリップなど企画されています。

引率者として守山市を訪問予定の一人は、自分が中学生の時にもこのプログラムがあったが、参加する機会に恵まれなかったこと。今回息子さんの参加に合わせ、引率者として参加できることになり大変喜ばれていました。この中学生交流は知名度が高く人気があること、また、親子など世代にわたって参加される方も多いことを知りました。

私からの滋賀県の紹介では、観光船ミシガンを切り口に、姉妹県州の関係や姉妹都市を説明。守山市の基本情報についても少し紹介したのですが、守山市の人口何人くらいかわかりますか？と尋ねたところ、レナウイ郡中学生から完璧な答えが返ってきて、びっくり。みなさん守山市訪問に向け



熱心に聞いてくれたレナウイ郡中学生の皆さん。

てよく勉強されていることがわかりました。

さらに、日本での滞在中のエチケットについて、お風呂の入り方、玄関の靴の脱ぎ方などクイズ形式で紹介しました。嫌いな食べ物が出てきたらどうする？の質問で納豆の写真を出したところ、1人の中学生が、ちょうど昨日、ホームステイする予定のパートナーとなる守山市の中学生から、納豆に挑戦してみるか聞かれたところだった、と手を挙げて教えてくれました。中学生の皆さんは、ほぼ全員全問正解でした。

その後、中学生の皆さんが守山市で発表予定のプレゼンテーションの練習を見学させていただきました。引率者からマイクの使い方や視線の配り方などのアドバイスもありました。発表には、昨年守山市中学生がレナウイ郡を訪問した際の写真が使われており、中学生同士の交流を知ることができました。プレゼンテーションは英語

でしたが、中には、特別に日本語で発表する練習を一生懸命してくれている中学生もいました。

同席していたレナウイ郡中間教育区の教育長からは、このプログラムを体験した人が、教師、親など地域のたくさんの場所にいること、こういった事前の取り組みも研修の大切な部分なのでぜひ楽しみながら頑張してほしいという激励の言葉がありました。

かつては様々な姉妹都市間で中学生交流が盛んに行われていましたが、現時点で交流がある姉妹都市は大変少なくなっています。こういった教育関係者の交流への理解なくしては実現しないことをひしひしと感じており、改めて教育長や引率の方に感謝を伝えました。レナウイ郡、守山市中学生の皆さんには、9か月ぶりの再開を楽しんでほしいと思います。



守山市との友好の証、鳥居や灯籠が美しい
エイドリアン市内フレンドシップガーデン。

2 学生にとって滋賀県に留学する魅力とは？

4月14日、ランシング市から北東に約90分、徳島市の姉妹都市としても知られるサギノー市にある、サギノーバレー州立大学で実施された日本への留学に興味を持つ学生向けのイベントに参加しました。ミシガン州立大学連合日本センター(以下「JCMU」)とともにブースを設置し、さらにプレゼンテーションする時間もいただき、参加者約80名の前でJCMUのプログラムや滋賀県の紹介を行いました。

JCMUは州内15の州立大学が組織していますが、プログラムに参加するのは同センターのオフィスのあるミシガン州立大学を筆頭に、ミシガン大学、イースタンミシガン大学、オークランド大学の学生が中心で、このサギノーバレー州立大学を含めたそれ以外の州立大学からの参加者は各大学1~3人程度にとどまっています。サギノーバレー州立大学では、JCMU以外にも、大阪府内の提携校など、日本への留学に複数の選択肢があります。実際に大阪府内の大学に留学した学生2人からのプレゼンテーションもありました。

JCMUは、彦根市内の他の大学や駅から少し離れた場所にあり、大阪の街中にキャンパスのある大学とは環

境が異なりますが、滋賀という湖とともに育まれた文化や歴史のある場所の魅力や、姉妹県州関係をフォーカスすることで違う形で学生の興味を引ければと思います。

私にとって、これから留学先を選ぼうとしている学生から見たとき、JCMU が他の日本留学プログラムと比べて客観的にどのように見られるのかを知ることができ、とてもよい勉強になった一日でした。



日本への留学に興味を持つ学生にプレゼンテーション。

ミシガンピック

1 ミシガンにもうすぐ春が来る — 長い冬の終わりと花開く季節

ミシガン州の春は 5 月に来る、と周囲の人たちから聞くことがあります。3 月ぐらいから、どんよりとした雲が晴れ、鳥の鳴き声が聞こえ、20 度近い気温で春の陽気になることもあるのですが、騙されたかのようにまた冬の様相に戻る、というのを何度も繰り返し、ようやく 5 月に本当の春が来たという実感にいたります。

2025 年 11 月～2026 年 3 月、州都ランシング周辺では合計 100 日以上、最長で 23 日間連続して最低気温が氷点下を記録したことがニュースになりました。個人的には、特に吹雪や寒さの続いた 1 月は耐え難い時期でしたが、1970 年代に比べれば、その寒さもかなり緩んでいるそうです。

ミシガンの春が間近の 4 月下旬、ランシングコミュニティカレッジのキャンパス内にある日本庭園、重松記念庭園の桜を觀賞しようと立ち寄りました。桜の写真を撮っていたところ、ランシングコミュニティカレッジのロビンソン学長が新しく生まれた鯉の赤ちゃんを池に放流される場所に遭遇。11 匹の親鯉から、31匹の稚魚が誕生したそうです。重松記念庭園を紹介する SNS を自ら管理されるなど、庭園をこよなく愛する学長とは知っていたものの、スーツ姿でひざまずき、一匹ずつ稚魚の写真を撮って放流する姿を見て、あらためて庭園を大切にいただいていると感じました。新しいポンプとフィルターが設置され、さらに池は毎年恒例の清掃を終え、鯉は気持ちよさそうに泳ぎ出していました。



稚魚を放流するロビンソン学長。

